

山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシーと医学専門群におけるマイルストーン

	医学専門Ⅰ群	医学専門Ⅱ群	医学専門Ⅲ群	医学専門Ⅳ群・Ⅴ群
群の特徴	医学・医療の基盤となる基礎医学を、臓器・系統別に編成された“コース・ユニット制”に基づくカリキュラムのもとで学修する。講義、実習、少人数グループ学修等により、医学・医療の基盤となる基礎医学知識を身に付ける。	基礎医学から臨床医学への発展前段階として、社会医学や臨床医学総論を含めた知識の水平的統合を行う。また研究活動を通じて科学的探求力と自己開発力の涵養を行う。	臓器・疾患別に編成されたユニット講義により臨床医学各論を体系的に学ぶとともに、医療法学、医療安全、多職種連携、基本的臨床技能を学修し、臨床実習前段階としての基本的能力を身につける。	医学部附属病院、教育関連病院や地域の医療機関での診療参加型臨床実習を通じて、知識・技能・態度など医師として求められる能力の涵養と発展を図る。
	基礎	基礎	発展	応用
DP1: 医療基盤力	生命現象の基本、人体の基本的構造と機能、分子細胞生理学等の基礎医学知識や、診療の基盤となる臨床病理学知識を有し、実習を通じて問題解決に応用することができる。	基礎医学知識の学修を進めるとともに、基礎系コースの最終段階として統合医学テュートリアル等の演習を通じて知識の水平的統合を行い、問題解決に応用できる。	基礎医学と社会医学の知識を基盤として、臨床医学を系統的に学修することで、疾病についてより総合的に理解し、病態や疾病の理解や臨床推論に応用することができる。	診療参加型臨床実習を通じ、学修した基礎医学・臨床医学知識を応用し、臨床推論法・基本的診療技能などを実践できる。
DP2: 地域・国際対応力	地域の保健・医療・福祉・介護に関する社会医学知識を身に付けている。	高度自己修学コースや社会医学活動を通じて、地域の保健医療を理解・実践できる。社会・自然科学と関連する医学知識を広く学び、社会の変化や国際化に対応する能力を身に付けている。	疾病に関する疫学・予防・医療体制等、地域医療や国際医療に関する知識を有し、地域保健活動を実践することができる。	地域医療実習や学外実習を通じ、地域医療・地域保健活動やプライマリケアを実践できる。
DP3: 医療プロフェッショナリズム	医療倫理に関する基本的な知識を修得するとともに、医療人としての自覚をもった対応ができる。自律した学修姿勢を育み、解剖・生理等の実習を謙虚と畏敬の念を持って取り組むことができる。	研究活動や社会医学活動を通じて、教養を高めるとともに、研究倫理やセルフマネジメントなど医師としての高い倫理性を身に付けている。	医療に関する法学や医療安全・臨床倫理に関する知識と考え方を身につけ、模擬患者や事例検討、シミュレーション学修において医師としての対応を実践することができる。	医師としての職責を自覚し、患者・家族および医療スタッフ等と良好な関係を築くことができる。医療安全を心がけて実習を行うことができる。キャリア教育や指導医とのディスカッションを通じて、自身の目標と将来像を表現できる。
DP4: チーム医療とコミュニケーション能力	実習やグループ学修において、周囲と連携して役割分担と情報共有を行い、協調・共働するチーム力を身に付けている。	研究活動や社会医学活動を通じて、研究者や医療従事者、社会と深く関わり、円滑なコミュニケーションと共働ができる。機会があれば学外や海外での活動にも参加できる。	医療安全・行動医学・多職種連携に関連するユニットで、医師としての責務を自覚し周囲と共働することができる。小グループで共働して事例検討やシミュレーション教育に取り組むことができる。	指導に関わる医師や看護スタッフ等の多職種医療職との連携の中で、医師としての対応やコミュニケーション、チーム医療を実践できる。
DP5: 自己開発力	医学・社会の変化をにらみながら、積極的に最新の情報を収集・分析し、基礎医学を中心として医学の修得に積極的に取り組むことができる。	研究活動の中で、自分自身の知識、技術や態度を客観的に評価し、その向上に向けた努力をする能力を身に付けている。	医療を取り巻く変化を踏まえ、最新情報を収集・分析し、臨床医学を中心とした医学の修得に積極的に取り組むことができる。	臨床実習を通じて医学の修学に積極的に取り組むとともに、臨床医学・生命科学の先端分野に触れ、継続的に学術的視野の拡大に努めることができる。
DP6: 科学的探究力	自然科学への探究心と論理的思考力を持ち、基礎医学知識の修得と実習手技を実践できる。	人々の健康と疾病の問題に対して幅広い学術的視野を持ち、独創的な研究活動や社会活動を行うことができる。その成果を論理的に理解し、論文にまとめるとともに、口頭発表できる。	基礎医学と臨床医学を垂直統合して課題に取り組むことができる。臨床推論を体験し、問題点の発見と考察、解決のプロセスを学修する。また成果をまとめ、発表できる。	臨床情報をもとに臨床医学・基礎医学・社会医学等の知識をもとに論理的に考察し解決に導くことができる力を養う。成果をレポートにまとめ、口頭発表できる。
DP7: 総合的診療能力	将来の医師としてのコミュニケーション能力を有し、医療・介護に関する見学実習や保健活動を安全に実践できる。	実践的診療の基盤となる基礎医学知識を応用しつつ、患者安全と全人的視点をもって実習や社会活動を行うことができる。	少人数グループで課題解決型学修、実技実習、シミュレーション実習を行い、臨床実習前段階としての医学知識の統合と臨床推論の演習、基本的診療技能の修得を行う。	診療チームの一員として、自ら医療面接や身体診察、基本的検査によって情報を収集し、統合された知識と技能に基づいて問題点を抽出し、解決に向けて診断や治療の計画を立案・実行することができる。